

日本臨床検査医学会 平成 21 年度 第 2 回
臨床検査専門医・管理医 審議会 だより

日 時：平成 21 年 8 月 8 日(土)10:30~11:30
場 所：日本臨床検査医学会 事務所
出席者：宮澤幸久, 高橋伯夫, 松野一彦,
高木 康, 土屋達行, 村田 満,
佐藤尚武, 水口國雄 各委員(8名)
欠席者：渡邊 卓 委員(1名)

委員長挨拶(宮澤幸久 委員長)

宮澤幸久委員長より開会の宣言があり議事は進行された。

【報告事項】

1. 臨床検査管理医講習・認定試験開催について

(高木康 試験委員長)

高木委員長から説明があった。

- ・日時：平成 21 年 8 月 29 日(土)9:00~13:00
- ・場所：札幌コンベンションセンター 1F 107 会議室
松野学術集會会長から会場に関する説明があった。
- ・会場は 107 号室で行い, 受験生数に合わせたセッティングを行う予定。

2. その他

特になし。

【審議事項】

1. 研修施設の新規申請 1 件について

(松野一彦 研修施設・指導者認定委員長)

東京都健康長寿医療センターからの申請について説明があった。

「常勤の勤務医がいる」規定に触れ, 病理医が兼任している。しかし, 選任の臨床検査科部長の指導担当者が臨床検査管理医でもあり, 認定病院(認定期間 2 年)で承認することとなった。

2. 臨床検査専門医の更新申請 1 名について

(土屋達行 受験・更新資格審査委員長)

土屋委員長から, 前回(5/30)の審議会直後に申請書類が到着した申請者(園部宏(中国中央病院臨床検査科))について説明があり, 審議の結果, 要件を満たしており, 承認することとなった。

3. 第 26 回臨床検査専門医認定試験結果について

(村田 満 試験実行委員長)

村田実行委員長から本年度 8/1, 2 に実施された臨床検査専門医認定試験結果について報告があった。

19 名の受験生(1 名が欠席)があり, 4 名が不合格(化学・免疫, 免疫・微生物, 微生物, 免疫)であった。合格者のうち 2 名はコメント・条件付き合格とした(免疫での輸血・交差適合試験)。条件は来年の専門医会教育セミナーを受講することとした。

4. 平成 22 年度からの臨床検査専門医の受験資格について(土屋達行 受験・更新資格審査委員長)

土屋委員長から受験・更新資格審査委員会で検討した次年度からの専門医受験資格改定案について説明があった。

会員歴を満 5 年(基本型), 満 3 年(受験者区分 2)以上とする。試験要領公告の場合には, 具体的な日時を掲載する。

レポート提出は必須であること(クレジットの 20 編についてはセミナーなどで補足できる), 認定証の申請には原則会員歴 5 年を必要とすること, 来年(平成 22 年度)の受験から適応すること, 以上, 審議の結果, 承認された。

5. 平成 22 年度からの臨床検査管理医の受験資格について(土屋達行 受験・更新資格審査委員長)

土屋委員長から, 受験・更新資格審査委員会で検討した次年度からの管理医受験資格改定案について説明があった。

管理医の資格に, 日本専門医制評価・認定機構加盟の専門医, 認定医のほか, 日本医師会産業医資格を加えることと, また, 出願時に 1 年以上の会員歴があることとした。

6. その他

次回, 臨床検査専門医・管理医審議会日程

第 3 回：平成 21 年 12 月 19 日(土)11:00~12:00

日本臨床検査医学会

平成 21 年度 第 3 回理事会だより

日 時：平成 21 年 8 月 8 日(土)12：00～16：00

場 所：日本臨床検査医学会事務所

出席者：宮澤幸久理事長，高橋伯夫副理事長，
高木 康総務理事，玉井誠一会計理事，
米山彰子庶務理事，矢富 裕，諏訪部章，
福武勝幸，松野一彦，石 和久，村田 満，
荏原順一，宮地勇人，三家登喜夫，
小出典男，山根誠久 各理事
戸谷誠之，中原一彦 各監事

欠席者：熊谷俊一，登 勉 各監事

理事長挨拶

宮澤幸久理事長から挨拶があり，石 和久理事と
三家登喜夫理事を議長録署名人に定めて，理事会の
議事が進められた。

最初に，土屋達行会則改定アドホック委員長に説
明頂くため，審議事項 9，10 の審議を行った。

9. 定款，細則改定案(選挙理事・支部理事・指名理
事の任期)について(土屋達行 委員長)

土屋委員長から定款，細則の改定案について説明
があり，理事の任期について 第 28 条 重任理事に
ついては 8 年とすること，細則第 4 条 2 期 4 年の任
期中に理事の任期が連続して 8 年を超える者は被選
挙権を有さないことが改定箇所であるが，理事会で
審議のうえ承認された。

10. 支部規約の雛形について(土屋達行 委員長)

一般社団法人化されたこともあり，支部も法人組
織ということであり，支部毎に定められていた支部
規約を統一すべきとなり，支部規約の雛形を作成し，
各支部ではこれを基に検討して支部規約を作成して
本部に提出していただく，そして提出後は委員会で
確認することとなった。

【報告事項】

1. 支部報告

各支部長から支部活動について報告があった。

北海道支部報告(松野一彦 支部長)

1. 支部総会の予定

第 43 回支部総会

日 時：平成 21 年 8 月 29 日(土)

場 所：札幌コンベンションセンター

総会長：藤田昌宏(名寄市立大学保健福祉学部)

内 容：シンポジウム(9：30～11：30)

第 56 回日本臨床検査医学会学術集会と共催

「免疫グロブリン検査を見直す」

司会：藤田 昌宏(名寄市立大学

保健福祉学部)

伊藤 喜久(旭川医大臨床検査医学)

1. 免疫グロブリンとは

真船 直樹

(酪農学園大学酪農学部食品科学科)

2. 免疫グロブリン定量とその問題点

窪田 信幸(栄研化学(株)生物化学研究所)

3. IgG4 測定法の基礎検討と臨床的意義

亀子 光明(長野市民病院臨床検査科)

4. M 蛋白検出法とその問題点

山田 俊幸(自治医大臨床検査医学)

5. Free light chain 測定の臨床的意義

松田 正之(信州大学医学部第 3 内科)

6. 酵素 蛋白結合免疫グロブリン

藤田 清貴(千葉科学大学)

総会

一般演題 20 題

会長講演

2. その他の報告事項

北海道支部評議員会

日時：8 月 18 日(火)18：30

場所：北海道大学大学院保健科学研究院会議室

東北支部報告(荏原順一 支部長)

1. 支部総会の予定

第 41 回支部総会

期 日：平成 21 年 7 月 25 日(土)10 時～

場 所：コラッセふくしま

総会長：金光 敬二(福島県立医科大学

感染制御・臨床検査医学講座 教授)

内 容：一般演題，

シンポジウム：検査部における様々な

トラブルとその対処法，ランチョンセ

ミナー，

特別講演

日本臨床検査医学会ニュース

- 血液疾患に対して検査部はどう対処すべきか
石澤賢一(東北大学病院血液免疫科)
 - 医療とコミュニケーション
大原義子(大原マネジメント研究所)
2. 支部例会の予定
第33回支部例会
期 日：平成21年11月14日(土)
場 所：フォレスト仙台
例会長：賀来 満夫(東北大学大学院医学
研究科感染制御・検査診断学 教授)
内 容：テーマ「新型インフルエンザパンデミ
ックへの対応」
事務局(連絡先)：東北大学大学院医学研究科
感染制御・検査診断学
3. 支部人事変更について
功労会員に川村武先生を推薦。
4. その他の報告事項
平成22年度第42回総会担当は弘前大学の保嶋実
教授に決定。
平成22年度第34回例会担当は福島県立医科大学
の金光敬二教授に決定。
平成23年度第43回総会担当は秋田大学の荻原順
一教授に決定。

関東・甲信越支部報告(宮地勇人 支部長)

- 支部総会の予定
第21回支部総会
期 日：平成21年9月26日(土)
場 所：国立大学財務経営センター
総会長：米山彰子(虎の門病院検査部長)
内 容：
特別講演
「造血細胞移植の現状と臨床検査について
-特に薬物血中濃度とウイルス再活性化の
モニタリングの重要性-
谷口修一(虎の門病院血液内科)
シンポジウム1
「先端医療と臨床検査の新たな潮流」
- 東大検査部における遺伝子検査への
取り組み
横田浩充(東京大学医学部附属病院検査部)
- 進化する肝炎治療-テラーメイド
治療のための検査の活用-

鈴木義之(虎の門病院分院臨床検査部)
シンポジウム2
「よりよい臨床検査の活用・運用をめざす
検査部の取り組み」

- FDP, D ダイマー同時依頼削減による検査
利用率化-順天堂医院における適正化
経緯と効果-
三宅一徳(順天堂大学臨床検査医学)
- 臨床検査のコスト調査の試み-診療報酬改
定と業務改善をめざして-
米山彰子(虎の門病院中央検査部)
- 最適な医療を提供するために-臨床検査の
立場から-
金子 誠(東京大学医学部附属病院検査部)
- 駿河台日大病院での臨床検査有効・適正利
用の推進-内科回診, On-Call, 院内会議
を通じて-
土屋達行(駿河台日本大学病院臨床検査部)

東海・北陸支部報告

(高木康総務理事, 登勉支部長欠席のため)

- 支部例会の予定
第28回支部例会
期 日：平成21年9月6日(日)午後1時~3時
場 所：福井県立病院3階講堂
例会長：木藤知佳志 先生(福井県立病院)
内 容：
「よりよい臨床検査医学を求めて」
- 骨粗鬆症に関する疫学研究を中心としたビ
タミンD研究の最近の話題
津川尚子(神戸薬科大学衛生化学研究室)
- エリスロポエチンの過去・現在・未来
樋口正人(金沢医科大学腎機能治療学)
- エスアールエルにおける学術支援体制~特
にWebを使用した情報提供について~
蝶野和子(エスアールエルマーケティング部)
事務局：福井県立病院検査室室長 宮越伸治

近畿支部(三家登喜夫 支部長)

- 支部総会の予定
第52回支部総会
日 時：平成21年11月28日, 29日
場 所：京都市勧業館「みやこめっせ」

総会長：佐守友博(日本医学臨床検査研究所)
内容：近畿医学検査学会と同時開催
事務局：日本医学臨床検査研究所 佐守友博

2. 支部例会の予定

第55回近畿支部例会

日時：平成22年6月頃(未定)
場所：未定
例会長：片山 善章
(神戸常盤大学保健科学部医療検査学科)
内容：未定

中国・四国支部報告(小出典男 支部長)

1. 支部総会の予定

第55回日本臨床検査医学会中国・四国支部総会
第150回日本臨床化学会中国支部例会・総会
第20回日本臨床化学会四国支部例会・総会
第6回合同同地方会
期日：平成22年
場所：岡山大学医学部臨床第二講義室
(〒700-8558 岡山市鹿田町二丁目5番1号)
総会長：杉浦哲朗(高知大学 教授)
内容：未定
事務局(連絡先)：高知大学臨床検査医学講座

九州支部(山根誠久 支部長)

1. 支部総会の予定

第55回支部総会
日時：平成22年2月13日(土)
場所：九州大学病院地区コラボセンター
総会長：出原 賢治
(佐賀大学医学部分子医化学分野・検査部)
内容：
特別講演
佐賀大学医学部分子生命科学講座 池田義孝
一般演題を募集
事務局：佐賀大学医学部附属病院検査部長
出原賢治

2. 各種委員会報告

A. 編集委員会(矢富 裕 委員長)

1. 独立行政法人科学技術振興機構(JST)が行っている学会誌の電子化について
本件に関して、学会事務局において説明を受けた

が、今回は見合わせることにした。

主な理由、

本事業への応募条件の中には、「無償公開に同意できること」があるが、これとは両立しないと思われる外販収入の額が非常に大きいこと。

現在、既に Medical Online に加入していること。

応募条件の中に「電子アーカイブ事業への参加意思が組織決定されていること」があり、とても締め切りまでに、学会で議論が尽くせないこと

2. 編集委員会委員増員の件

3. 「高知大学学術情報リポジトリ」にアーカイブ化・公開の件

B. 臨床検査点数委員会(米山彰子 委員長)

1. 平成22年度診療報酬改定への提案書について厚生労働省ヒアリング

7月15日に実施

宮澤理事長、米山委員長が出席

2. 臨床検査振興協議会医療政策委員会からの協力要請への対応

- ・微生物検査、感染症検査の価値の評価
- ・遺伝子・染色体検査の価値の評価
- ・血算、末梢血液像についての実態調査
- ・検査のコスト調査

理事、評議員から協力いただき、回答した。

医療政策委員会では厚生労働省への提言書を取り纏める作業を行っている。

C. 標準化委員会(福武勝幸 担当理事)

治験検査の標準化検討WGのメンバーと当面の検討項目が決定した。8月の札幌での委員会で承認を得たあと、活動開始予定。

D. 精度管理委員会(宮地勇人 委員長)

1. CAP会長の来日講演について

講演者：Dr. Jared N. Schwartz (CAP 会長)

タイトル：学術集會会長の招聘講演

「臨床病理学の新しい方向」

日時：8月28日(金)11:00-11:45

2. CAPとの誓約書の取り交わし

文章案作成済み

3. IVDグローバルニュースについて

学会の Logo mark を削除(2009 夏号から)

日本臨床検査医学会ニュース

読者への挨拶状を 2009 夏号から同封して送付した。

E. 倫理委員会(松野一彦 担当理事)

1. 「臨床検査を終了した検体の業務、教育、研究のための使用について—日本臨床検査医学会の見解—」の改訂案について

倫理委員会においてまとめた改訂案について日本臨床検査医学会の評議員の先生方に広く意見を求めましたところ 4 名の先生からご意見をいただきました。それらを踏まえて倫理委員会委員で意見交換をしたところ、改訂案の若干の字句の修正と書き出しの部分を簡潔にすること、見解の正当性を持たせるために弁護士や有識者等の外部委員を交えての見解とすべきではないか等の指摘がありました。後者の点に関して、本年 7 月 17 日に昭和大学で開催された第 40 回医系大学倫理委員会連絡会議の「医学研究と倫理」に関するシンポジウムで「研究用組織の提供・分配システムをめぐる倫理的問題」について講演された明治学院大学法学部辰井聡子先生に今回の倫理委員会の改訂案についてご意見を伺っております。これらの点について第 56 回日本臨床検査医学会学術集会期間中に開催される倫理委員会で討議し、最終案としたいと考えております。

2. 倫理委員会開催予定

平成 21 年 8 月 26 日(水)15 時～16 時
札幌コンベンションセンター102 会議室

F. 検査項目コード委員会(村田 満 委員長)

日 時：平成 21 年 6 月 10 日(水)16:00～17:00
場 所：日本臨床検査医学会事務局会議室(第 105 回項目コード統一検討会同時開催)
出席者：村田 満(委員長)、佐藤尚武、石黒厚至、井上勉、北原邦明、山田悦司、板橋光春、岩崎真司(各委員)

議題

1. 前回議事録の確認

前回(11 月 27 日)の、学術集年内平成 20 年度第 3 回当委員会議事録内容について、異議のないことが確認された。

2. JLAC10 コード新規登録申請

平成 21 年 6 月度新規保点収載項目の分析物コード 1 件と、検査センター要望の結果識別(固有)コー

ド 4 件が申請され、決裁された。

また上記以外に既存 JLAC10 コードでの適用が申請された、平成 21 年 1 月度新規保点収載項目(EGFR 蛋白)について議論され、新たな分析物コード設定が望ましいという結論になり、分析物コードが新設された。

検査項目コード委員会への質問対応報告

平成 20 年 12 月から平成 21 年 5 月までに試薬メーカーから、日本臨床検査医学会 検査項目コード委員会へ寄せられた JLAC10 コード関連の質問とその回答(3 件)が報告された。

その他

昨年 1 月 19 日の日本臨床検査医学会 理事会にて承認いただいた「臨床検査項目分類コード(JLAC10)のユーザー領域設定について」*の内容を、日本臨床検査医学会のホームページに掲載すべきではないか、との意見が出され、次のホームページ更新時から掲載することが確認された。

*「臨床検査項目分類コード(JLAC10)のユーザー領域設定について」

内容：JLAC10 を使用する医療機関・健診機関などの施設において、その施設に限定され、その施設で採番した既存の JLAC10 にないコード群の領域設定ルール。

G. 臨床検査室医療委員会(米山彰子 担当理事)

(1)「臨床検査室医療評価指標計算プログラムの開発」プロジェクト研究班との共同開発により開発されたプロトタイプを、広く試用してもらう目的で、学会のホームページに掲載することにつき、米山担当理事を通じて理事会のご了承を得たため、移し替え作業を進めています。

(2)プロジェクト研究班の成果報告を、切り口を分けて 2 つの論文にまとめることとし、研究班と委員会で分担執筆中です。

H. 遺伝子委員会(村田 満 担当理事)

1. ファーマコゲノミクス(PGx)ガイドライン共同策定委員会開催について

目的：ファーマコゲノミクス(PGx)検査運用指針の公開を踏まえて、治療を含めた臨床利用のためのガイドラインを関連学会共同で策定する。

会議開催(予定)

日時:2009年8月15日土曜日PM2:00-4:00

場所:東大医科研

参加予定者:鎌谷直之(日本人類遺伝学会遺伝薬理学委員会委員長),宮地勇人(日本臨床検査医学会遺伝子委員会委員長,日本臨床検査標準協議会;JCCSL),植田真一郎(日本臨床薬理学会ゲノム委員会委員長),谷川原祐介(日本TDM学会理事長),堤正好(オプザーバー,個人遺伝情報取扱協議会理事長)

2. 遺伝子検査の臨床的価値の評価について

1) 臨床検査振興協議会から遺伝子検査の臨床的価値の評価調査(有用性の評価, 妥当な保険点数, コスト, 件数など)への協力依頼あり, 委員からの意見を集計して回答した(4月)。

2) 日本臨床検査専門医会の点数委員会から内保連を通して, 次期保険診療報酬改定に向けて遺伝子検査の保険点数増点を要望した(4月)。

染色体検査: 現行2000点より3200点への増点

血液細胞核酸増幅同定検査: 現行2000点6ヶ月に1回の算定要件(施設基準)を月1回への変更

遺伝病的検査: 現行2000点より8000点への増点など

I. 国際委員会(高橋伯夫 副理事長)

「国際学会発表者に対する奨励金に関する規定」に関して委員会でも再検討予定である報告があり, WASPaLM, ASCPaLM 等の連絡先を学会事務局に徹底することの再確認の要望がなされた。

3. 第56回日本臨床検査医学会学術集会報告

(札幌2009/8/27~29)(松野一彦 会長)

松野会長から進捗状況について報告があった。

会期:平成21年8月26日(水)~29日(土)

会場:札幌コンベンションセンター(札幌市白石区東札幌6条1丁目)

テーマ:「拡大する検査の力」

4. 第57回日本臨床検査医学会学術集会報告

(東京2010/9/9~12)(宮澤幸久 会長)

宮澤会長から進捗状況について報告があった。テーマが決定してプログラム委員会を組織して検討する予定である。

会期:平成22年9月9日~12日(2010年)

会場:京王プラザホテル

会長:宮澤幸久(帝京大学医学部

臨床病理学 教授)

テーマ:「検査の価値 - その評価・そして未来に向けて -」

5. 第58回日本臨床検査医学会学術集会報告

(岡山2011/秋)(小出典男 会長)

小出会長から進捗状況について報告があった。

会期:2011年11月17日(木)~20日(日)

会場:岡山コンベンションセンター

(ままかりフォーラム)

(岡山市北区駅元町14-1

岡山駅から徒歩3分)

6. 平成22・23・24・25年度理事・監事選挙結果について(村田満 委員長)

村田委員長から第1回選挙管理委員会議事録の説明があり, 続いて選挙結果について報告があった。これからの手続として理事会後に, 選出者に承諾の意志を確認して, 承諾書を提出していただくこととなった。

また, 理事会後に選挙結果をホームページ(8/10)と臨床病理8月号に掲載することとなった。

7. 平成21年度臨床検査専門医認定試験結果について(宮澤幸久 審議会委員長)

宮澤審議会委員長から, 19名の受験者中15名が合格したことが報告された。

8. 臨床検査専門医認定試験の受験資格について

(宮澤幸久 審議会委員長)

宮澤審議会委員長から受験資格について説明があった。

それに対して, 日常業務・記録に関して, 具体的な報告書, 日常記録などの例示がほしいとの要望があり, これらについて試験委員会で検討して, 次回の理事会で報告することとなった

9. 第10回ASCPaLM会議補助金送金について

(高橋伯夫 副理事長)

高橋副理事長から経緯について説明があった。当

日本臨床検査医学会ニュース

初予算は、100万円だったが、今回の会議規模も小さいこと、本会としても今後、展示共催分配金も減額される可能性もあるため50万円にしてドル建てでモンゴルに送金した。

10. JCCLS用語委員会代表委員推薦について

(宮澤幸久 理事長)

日本医学会用語委員会委員でもある高橋伯夫先生を推薦したことが報告された。

11. 「平成 21 年度女子学生、研修医等をサポートするための会」の開催について

(宮澤幸久 理事長、米山彰子理事)

講習会を企画した場合には補助金が得られるため積極的に検討することとなり、米山理事を中心に検討することになった。

12. 専門医制度における出産・育児等への配慮について(高木 康 理事)

現時点では、これについての規定がないため、会則改定委員会で検討することとなった。

13. その他

理事・監事選挙の在り方について

(宮澤幸久 理事長)

理事・監事選挙は、現在、被選挙人が評議員全員となっているが、常任理事会において、自薦、他薦(立候補、推薦書の提示)による立候補制とすることが望ましいのではないかと考えた。本件について、会則改定委員会(土屋委員長)で検討していただくこととなった。

【審議事項】

1. 第 55 回学術集会収支報告について

(玉井誠一 理事、登勉先生欠席のため)

玉井理事から説明があり、監事から監査報告があり、収支報告書は承認された。

2. 平成 21 年度中間決算報告・平成 22 年度会計予算案について(玉井誠一 理事)

玉井理事から平成 21 年度中間収支実績、平成 22 年度予算案について説明があり、承認された。

3. 平成 21 年度事業報告について(高木康 理事)

高木理事から説明があり、承認された。

4. 平成 22 年度事業計画(案)について

(高木康 理事)

高木理事から説明があり、承認された。

5. 平成 21 年度学会賞受賞候補者について

(宮澤幸久理事長、矢富 裕 理事)

持ちまわり理事会で既に承認されていた学術賞、生命科学賞、優秀賞、奨励賞、優秀論文賞について、宮澤理事長、矢富理事から説明があり、再確認された。

また、Bergmeyer-Kawai 賞受賞候補者については、応募者がいなかったため理事からの推薦を依頼したが特に推薦はなかったため、常任理事会から推薦された渡辺清明名誉会員が承認された。

6. 学会賞に関する規定の改定について

(矢富 裕 理事)

応募資格を分かりやすくした改定箇所について説明があり承認された。

理事より、奨励賞(Young Investigator Award)について、規定では年齢制限は加えないとしているが、英文と和文が異なる印象があるため、年齢制限を設けるか、英文を検討するかなどについて委員会で検討することとなった。

7. 平成 22 年度からの名誉会員・功労会員・社員(評議員)の推薦について(高木康 理事)

高木理事から説明があり、推薦された名誉会員、功労会員について承認された。

社員(評議員)については、定款など選出関連条項について説明があった。

推薦者のうち、承認されなかった被推薦者に対して本部事務局から文書で通知することとなった。また詳細については各支部長に説明してもらうこととなった。

第 9 条 2 項での選出が主になる支部が多くあるので、この項を十分に活用してもらいたいが、活用にあたっては十分被推薦者に説明していただくこととなった。社員(評議員)候補者について承認された。

8. 第 59 回(平成 24 年度 ; 2012 年)学術集会長の推薦について(宮澤幸久 理事長)

支部の順番だと九州支部であるが、山根支部長に確認したところ、推薦者はいなかった。そのため、近畿支部から推薦のあった一山智先生(京大)に依頼することとなった。

9. 定款,細則改定案(選挙理事・支部理事・指名理事の任期)について(土屋達行委員長)

理事会の冒頭で土屋委員長から説明があり、審議後、承認された。

10. 支部規約の雛形について(土屋達行委員長)

理事会の冒頭で土屋委員長から説明があり、各支部での現状について各支部長から説明があり、雛形について審議された。審議後、一応承認され各支部の現状に合わせた(案)を本部に提出していただくこととなった。

11. 臨床検査管理医制度規定の改定について

(高木 康 理事)

高木理事から説明があり、出願時に 1 年以上の会員歴があること、また、日本専門医制評価・認定機構に加盟している学会の専門医・認定医あるいは日本医師会産業医資格を有していることが臨床検査管理医認定試験を受験する条件と改定することで承認された。

12. 「全国検査部長 技師長会議に関する取り決め」について(矢富 裕 理事)

矢富理事から全国検査部長・技師長会議に関する取り決め(案)について説明があり、承認された。

理事より、検査部長・技師長宛てではなく病院の管理者に出席依頼を送付してはどうかという意見もでたが、各病院での環境・条件も異なるため、依頼のあった病院については、その都度、学術集会の担当会長が発送することとなった。

13. CAP サーベイ事務局移管, IVD グローバルニュースについて(宮地勇人 理事, 高木 康 理事)

宮地理事から説明があった。

シノテストから、CAP プログラムを施行している日本の施設を増加させたい、項目数を増やしたい、ということで CAP プログラムを仲介している CGI へ移行した。

グローバル精度管理調査としては CAP サーベイの重要性は高いことは十分認識している。

現在は、学会精度管理委員会の監修のもとに「臨床検査室グローバルニュース」が発刊されているが、これが一企業にコミットした印象を受けるため、委員会でより冊子内容作成の監修をしていただくことで、承認された。

14. その他(高木 康 理事)

高木理事から理事会、定時社員総会日程について提案された。

(平成 21 年度 第 4 回 : 12 月 19 日(土)13 時～、懇親会 16 時～1 時間程度)

(平成 22 年度 理事会・定時社員総会 : 平成 22 年 3 月 27 日(土)正午～・15 時～)

閉会の挨拶 (高橋伯夫 副理事長)

高橋伯夫 副理事長から閉会の挨拶があり、閉会となった。